



お ばら よしおき  
小原 仁興 議員

## 町有林の50年生林はどの程度ありますか

町長 3,097畝の人工林のうち  
1,403畝が50年生以上です

### 「ゼロカーボンシティ しもかわ」の確実な 推進施策について

質問

気

象非常事態宣言として、2050年を目途に二酸化炭素排出を実質ゼロにする目標を掲げました。本年度、町長の任期の中で2050年までの二酸化炭素排出の抑制工程表、バックキャストイングを作成して公表するべきだと考えますが、町長の考えを伺います。

町長 今年度「下川町地球温暖化対策実行計画」を策定を予定しています。二酸化炭素の排出抑制などを推進するための総合的な計画であり、「二酸化炭素排出削減量」等の目標を設定し、その目標達成のために実施する措置の内容を定めるものです。計画ができるのは翌年の2月くらいを予定して取り組みを進めているところです。

再質問

製材業者の衰退や縮小、撤退による下川の木材から製材までのサプライチェーンが脆弱さを増していると考えますが、今後どのような施策を打つ考えなのか伺います。

町長

引き続き循環型森林経営に取り組みつつ、施業の拡大を図ることで林産事業者への原木の提供を強化するとともに、林業振興基金本条例の改正に際し、意向などを反映するよう検討します。

再質問

人工林の半数は50年生を越えて成熟していますが、町有林の50年生林はどの程度の面積となっているのか伺います。

町長

3,097畝の人工林のうち1,403畝が50年生以上です。いづれにしてもゼロカーボン、脱炭素の取り組みを進めるよう、汗をかいていきたいと思えます。

再質問

下

川の木材から、サプライチェーンが崩れているのではないかと思うのです。昔は木彫りをしていた方が多くいたり、森林施業に関わる方も多くいたり、出口で言えば、箸があり、木炭があり、流れとしてのストーリーがあります。この一連の流れは重要だと思つのですが考えを伺います。

農林課長

森林林業の出口として大事にしていきたいと思つています。今後は一つの副産物としての炭なども、例えば農地に還元できないかということも含めて、それをもつて使い切るというところに結びつけていきたいと思つています。

質問

下川町議会では「ゼロカーボン議会」の決議をしました。その際、行動指針を設けてそれに沿って、現在動いているところです。そのことについて議員同士

で普段から話題に上がるようになってきたりすることによって、家から出る時や、普段から常にゼロカーボンの取り組みが頭をよぎるので

少し踏み込んだ話になりますが、行政側も行動指針を設けることぐらいはできないのでしょうか。小さい力で大きく変わるチャンスだと思つますが、考えを伺います。

町長

今回、ゼロカーボン宣言をしたことで様々な組織が立ち上がりましたので、プロジェクト会議の中で職員ばかりではなく、当然町民の皆さんにも協力を求めているかなくてはなりません。そういう指針を作りながらゼロカーボンに向けて進めていきたいと考えています。